



Weekly Market Report

Apr 3, 2023

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

ドル円の上値は重いものの、週間に発表される米重要経済指標の数字に注目。

USD/JPY (1週間の値動き)



USD/JPY Currency (USD-JPY X-RATE) USD/JPY BGN Currency 1Week 7日 15分 Copyright© 2023 Bloomberg Finance L.P. 03-Apr-2023 07:50:34

(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は前週からの金融システム不安が後退する中、月末、期末の需給に絡んだ動きを背景にドル買い優勢。週初は、経営破綻したシリコンバレー銀行をファーストシチズン銀行が買収することで合意したとの報道を受け、金融システム不安への警戒観が後退し131円台後半まで上昇。その後は月末、期末に向けた実需勢のドル買い、永見野日銀副総裁によるハト派発言を背景に133円台前半まで上昇。週末に発表された米PCEデフレーターが市場予想下回ったことを受け、132円台後半まで戻して越週。金融システム不安が後退し、市場の関心は再び米インフレ、雇用動向に向かう中、米重要経済指標の数字に注目。(市場営業部/山下)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
4/3(月)	(日本) 日銀短観 第1四半期	
4/4(火)	(米国) 耐久財受注	-1.0%
4/5(水)	(米国) ADP雇用者数	21.0万人
4/5(木)	(米国) ISM非製造業景気指数	54.5
4/7(金)	(米国) 雇用統計 (NFP)	23.5万人

USD/JPY (5年間)



USD/JPY Currency (USD-JPY X-RATE) USD/JPY BGN Currency 日五 0108C016-034PR2023 Copyright© 2023 Bloomberg Finance L.P. 03-Apr-2023 07:50:42

(出所) Bloomberg

今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
鈴木万里子	131.00 – 135.90	金融不安によるリセッション懸念が和らぎ、ISMや雇用統計等指標に再注目。予想上振れであればドル買いで大きく反応か。
下出康平	131.20 – 135.20	依然として米労働市場は堅調に推移しており、FRBによる金融引き締め長期化観測からドルは底堅く推移すると予想。

2. 円金利相場概況

欧米金融不安は一服し長期国債金利は上昇。日銀新体制を睨みながらの展開か。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

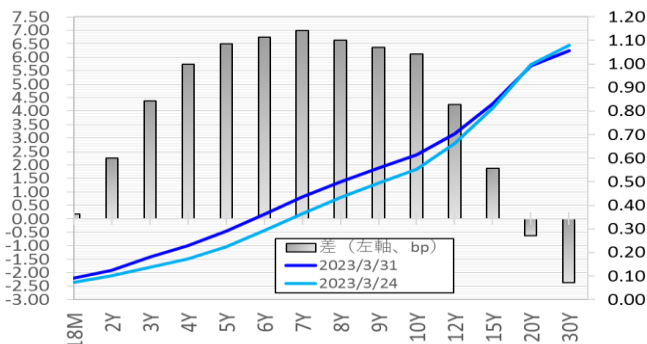


コメント

(出所) Bloomberg

週初は米当局が銀行向け緊急融資ファシリティ拡張などの追加支援策検討との報道から、欧米の金融不安も和らぐなか米金利が上昇したうえ、40年債入札を控え超長期ゾーンを中心に弱含みベア・スティーブ化が進んだ。28日の40年債入札は応募倍率が2.69倍（前回2.55倍）と堅調な結果だったことを受け、超長期ゾーンが強含みイールドカーブはフル・フラット化が進行。債券先物は一時的に148円81銭まで急上昇したが、その後水準を切り下げる展開となった。30日の2年債入札では応募倍率が3.89倍（前回4.11倍）と無難に通過。週末に発表された3月東京都区部CPIはエネルギー価格の伸びが縮小しコア指数は前年同月比で小幅減速したが、エネルギーを除いたコアコアでは食料品の伸びが拡大。インフレ加速基調が継続したことを受け、長期ゾーンを中心に金利が上昇して越週。今週は4日に10年国債入札、6日に30年国債入札が予定されており、植田日銀総裁発足を目前に市場参加者の動向が注目される。（市場営業部/木田）

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
加藤祐樹	0.30% - 0.38%	銀行システム不安による円債買いの動きはひと段落し、今週は日銀政策修正観測が強まる可能性に注意。
伊豆浦有里恵	0.30% - 0.34%	新年度に入り日銀総裁交替を控え様子見。米指標、10年、30年国債入札などを確認しながら居所を探る展開となりそう。

3. 今週のトピックス

2023年1-3月期の主要通貨対ドル騰落率

1-3月期のドル円相場は、欧米における金融不安の影響から円高圧力の強まる展開

<2023年1-3月期の主要通貨対ドル騰落率>

2023年1-3月期の主要通貨対ドル騰落率は、英ポンド+2.4%、ユーロ+1.6%、円-1.5%、豪ドル-1.7%【図表1】。1月は米国景気の後退懸念による米金利低下でドルが弱含み、主要国通貨は堅調な推移となったが、2月になると好調な米経済指標を受けたドルの買い戻しで主要国通貨は下落に転じる展開。ただし、3月に欧米金融機関の経営不安が高まったことで再び米金利が大きく低下するとドル売り主要国通貨買いの動きとなり、円についてはリスクオフの流れから一時年初来フラットの水準まで上昇する場面もあった。

また、1-3月期の主要国10年金利の変化幅【図表2】をみても、3月に欧米金融機関の経営不安が拡大した後は金利が低下方向に転じており、背景には信用収縮を懸念した米国FRBの利下げ観測の強まりがあるとみられる。なお、主要国の金融政策の状況は以下の通り。

◆米国FRB：3月のFOMCで25bpの利上げを行い、政策金利は4.75-5.00%。声明文において利上げスタンスを示す部分の表現が弱められたことに加え、ドットチャートでも2023年末に見込まれる政策金利が前回同水準となるなど全般としてハト的な内容となった。FRBはインフレと金融不安への対応で難しい金融政策運営を迫られている。

◆ECB：3月に50bpの利上げを行い、預金ファシリティ金利は3.0%。インフレを抑制するため、引き締めバイアスは強く、市場が予想するターミナルレートは3.5%程度。

◆BOE（イギリス中銀）：3月に25bpの利上げを行い、政策金利は4.25%。インフレは高止まりしているものの景気後退懸念が強く、利上げの打ち止めは近いとみられる。

◆RBA（オーストラリア準備銀行）：3月に25bpの利上げを行い、政策金利は3.60%。インフレ鈍化の見通しから金融政策はハト的なスタンスにシフトしている。

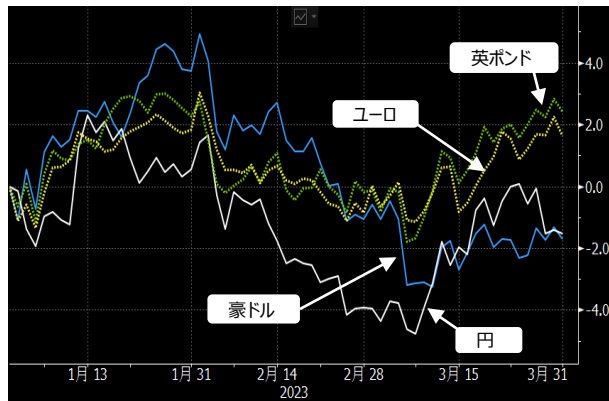
<シカゴIMM投機筋ポジション>

シカゴIMM投機筋ポジション【図表3】は、ユーロのロングポジション拡大が目立つ状況。ECBが強い金融引き締め姿勢を示していることに加え、エネルギー価格の下落でユーロ圏の経常収支が黒字に転じていることがユーロロングの積み増しを後押し。円についてはネットショートが3月に7万枚程度まで拡大していたが、足元ではリスクオフを受けた円の買い戻しが進行中。

<当面のドル円相場見通し>

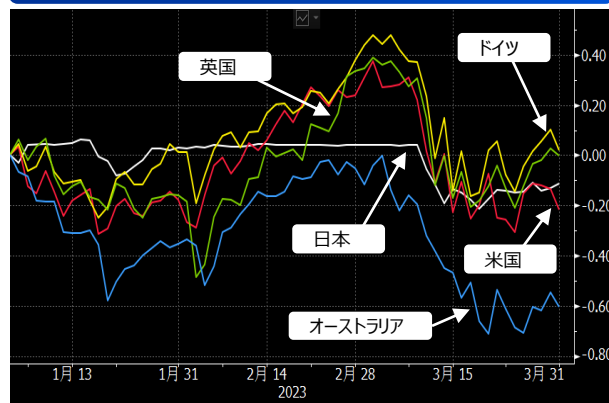
欧米金融機関の経営不安がくすぶる中、米国金利の上昇余地は限定的とみられ、ドル円相場は下落トレンドは継続しそうだ。日銀についても4月に黒田総裁が退任、植田新総裁を中心とした体制が発足することから、イールドカーブコントロール政策修正への思惑は強く、こちらもドル円相場の上値抑制要因となってくる。当面のドル円相場レンジは127.00-137.00円を想定。（チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃）

【図表1】 1-3月期 主要通貨対ドル騰落率(%)



(出所:Bloomberg)

【図表2】 1-3月期 各国10年金利変化幅(%)



(出所:Bloomberg)

【図表3】 シカゴIMM投機筋ネットポジション(枚)



(出所:Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会